



天 界 新 知 識

明るい二重星の新サイズ

米國リク天文臺の G. P. Kuiper 君といふのは、元來オランダ生れの若い天文家であつてかの1929年五月の日食観測のためライデン大學からスマトラ島へ遠征し、其の後、ジャバの第四回太平洋學術會議にも一寸顔を出したが、同年秋、太平洋を経て渡米し、リクに今まで滞在してゐる。此の人がエイトケン臺長の特別な指導を受けて、昨1934年からリク天文臺の小ドーム中にある口径30糎赤道儀を用ゐ、肉眼にも見える6.5等級以上の全天恒星の二重星サイズを始めた。全天と言つても、リク天文臺から見える肉眼星は赤緯 -20° 以北に限られ、總數約6000星の再調査であつて、さきのエイトケン氏の9等以上の二重星サイズに漏れた大距離のもの即ち視距離 $5''$ 乃至 $30''$ のものを主目的とし、倍率は270を使用する。しかし此の大事業の序でに、380倍の倍率を用ゐて、 $5''$ 以下の小距離の星をも測定してゐるが、30糎口径の望遠鏡で観測し得る最小距離は 0.73 である。

中口径の望遠鏡でなし得る貴い研究の一である。カイパー氏は今までに、既にリクで見える天空の半ば以上を調査し終り、 $30''$ 以下の新二重星約100個を發見した。其のうち、 $5''$ 以下のものだけでも下の如く約22對を數へてゐる。[ASP. 272, 273, 274]

- 11.R.466, 892, 1481, 2214, 2831, 2844, 3573, 3630, 3681, 4310, 4488, 5178, 5330, 6091, 6466, 7072, 7166, 7402, 7486, 8038, 8618, 8629.

カシオペア座 RS 星の變光研究

此の星はソフアイ式の變星であつて、1904年モスコウの Ceraski 夫人が寫眞板検査中に發見したものである。光度の観測は今までにブラジロ、ホイトニ、ジョルダン、シネラー、ロビンソン諸氏がやつてゐるが、最近には支那の中山大學の張雲氏が15糎の赤道儀で観測した。此等を要約すると、

観測者	観測地	年代	極大—極小	變光要素	M-m
Ceraski	モスコウ	1904	2.00
Blazko	モスコウ	1904/1906	9.1—10.0	2417263.2 + 6.297	1.8
Searcs 等	ロイス天文臺	1906/1907	9.28—10.05	2417412.607 + 6.2919	1.75
Whitney	ヴサー大學	1905/1907		6.295	
Zeipel					
Jordan	アレゲエ天文臺	1916/1920	9.12—10.46	6.295168	1.3
Schneller	ペルリン		10.26—11.61	2425126.38 + 6.29545	1.60
Robinson	ハイヴード	1930	1.04		2.5
張雲	廣東	1929/1934	0.68		1.3

詳細は國立中山大學天文臺兩月刊第5巻第5期にある。

